

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を基本に、地域性、ホームの機能を活かした事業所独自の理念を掲げている。 ゆっくり＝一人ひとりのペースに合った生活リズム、ゆったり＝くつろげる空間と時間の確保、楽しみながら＝生きがいを見出し、意欲の回復に繋がる支援を実践している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所に掲示し、朝礼時に唱和することで、認識を深め、ミーティングやカンファレンス、日々の業務の中に周知徹底させている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットや利用案内に分かり易く記載し、家族や、地域の方々の来訪時や家族会の機会等に、伝える努力をしている。	○ 家族、地域の方々が気軽に集まれる場として、今後趣味の会や文化教室の実施を検討していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	閑静な住宅街にあり、公園やスーパーに隣接、散歩や買い物、公共施設の利用を通して日常的な付き合いが出来る様努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入、祭りや消防訓練等地域活動にも参加している。	○ 老人会や地域活動への参加等、活動の場としてホームを提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所全体としての取り組みはしているが、ホーム単独での取り組みは不十分である。		地域の高齢者の方々とのお茶会や健康教室等の開催を検討し、手行きたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的に自己評価、外部評価を実施する事で、より課題が明確となり、具体的な改善に向け職員間で意識の共有が図れている。	○	より具体的な改善が図れるよう、話し合いの時間の確保と意識の統一に努めて行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価より上がった課題については、推進会議にて討議、具体的に、行政、地域の支援を頂き具現化できたものもある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代行申請や、訪問調査等、家族の代わりに対応する事もあり、連携や協力体制は出来ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、県、市町村、民間団体で主催する研修会に参加し、内部研修において、職員へ周知している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は、県、市町村、民間団体で主催する研修会に参加し、全職員に周知徹底、ホーム内での虐待の防止に努めており、現在そうした虐待の事実はない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内に分かりやすく記載、契約書、重要事項説明書にて十分な説明の時間を取り、理解・納得を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者、家族との面談を実施し、思いや希望の確認を行っている。又、意見箱を設置、苦情受付の窓口も明確にしており、いつでも意見の言える雰囲気を保っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りにて、生活・身体状況は報告している。金銭管理についても、出納帳により説明確認印を頂いている。又、状態の変化に伴いケアプランの変更が必要になった場合は、随時個別に報告相談を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や定期的な家族との面談を実施し、希望の確認は行っている。又、意見箱、苦情受け付け窓口を設置し、いつでも意見の言える仕組みは出来ている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、セクション会議、責任者会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個々の状況に応じた職員配置の調整は可能である。必要に応じて、事業所全体としてのバックアップ体制も出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や、離職は最小限に抑え、急な交代で入居者に影響が出ないように、引継ぎの期間をきちんと確保している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、定期勉強会、栃木支社階層別研修、継続者研修、本社スキルアップ研修等研修体制は整っている。又、外部研修に於いても情報の提供と時間の確保に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協議会等の研修で情報の共有は図れるものの、現状地域での交流の機会は少ない。	○	地域密着型サービス事業所間での連携を図っていく為、情報収集や各種研修には、積極的に参加していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	栃木支社研修旅行、職員親睦会主催による忘年会等は希望で参加できる。又、職員のメンタル面での相談窓口も設置されている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な面談、報告、考課表により、個々の職員の実績を評価、やりがいと達成感に繋がる環境を整備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の生活背景、日常生活動作能力の聞き取りにより、一人ひとりの状態とニーズを把握し、不十分なところは、面談の機会を確保し、本人を交えて確認を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の生活背景、日常生活動作能力の聞き取りにより、一人ひとりの状態とニーズを把握し、不十分なところは、面談の機会を確保し、本人、家族を交えて確認を行っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな小さいな訴えにも耳を傾け現状の把握に努め、広い視野を持って情報が提供できる様日頃より地域医療福祉間の連携強化を心がけている。	○	医療福祉サービスと、地域資源の情報収集に努めて行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学も含め入居前に、何度か入居者の方とお茶や会話を楽しんで頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援を踏まえ、本人の出来る力、持っている能力を活かしながら、共に生きる姿勢での関わりを心がけている。郷土料理や浴衣の着付け等入居者より教わる事も多い		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族と共に支援して行くという姿勢は維持、その為に情報の共有を図り、イベントの案内や、一緒に楽しめる外出の機会の確保に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後も本人と家族の関係が継続できる様、様子の報告や情報の発信を行っている。	○	家族も関われるホームでの活動を企画・立案・実施し、継続的な家族関係が維持できる様な働きかけをして行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り家族や親しい人との交流が継続できる様、穏やかな雰囲気作りを心がけており、家族・知人・友人の来訪も多い。馴染みの店への買い物にも出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中でお互いに、得意な事、苦手な事を助け合えるよう、支援に努めている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じ、対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの異なる性格、家庭環境等の背景を尊重し、その方に合った暮らしの実現に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に、生活背景の聞き取りを行い状態の把握に努め、不十分なところは、随時再アセスメントを行い確認している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自分らしく暮して頂く為、アセスメントにより課題を明確にし、日々の暮らしぶりを観察分析し本人の理解に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時、更新時、入退院時、本人、家族、ケアマネジャー、主治医間の話し合いを持ち、意見を反映した介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直し、状態に応じた見直しは、随時行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録、再アセスメントにより状態の確認・共有を図り、介護計画に沿った援助計画を作成しケアの統一を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型認知症対応型デイサービス・短期利用共同生活介護体制を整備。介護保険サービス・自主サービスを活かしながら柔軟な支援に努めている。	○	医療連携体制の整備により、負担となる受診・入院の回避、早期退院の支援、重度化した場合や終末期の入院の回避に取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用協同を心がけ、日常生活の中での関係構築に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、対応していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議の際相談、指導を頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が主治医としている医療機関での受診がされており、継続的な関係が維持できている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の専門医療機関を受診されている入居者も多く、受診の度に家族、医師、職員間での連携が図れている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在3名の看護資格を有する職員がおり、十分な相談、健康管理が出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時、医師、看護師、ソーシャルワーカーとの連携を図り、情報の共有、指導・相談の出来る関係が出来ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針の構築は、今後の課題である。	○	本人と家族の安心と納得が得られる様に、状況の変化の度に話し合いを繰り返し、関係者全体の方針の統一を図って行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の課題である。	○	最後をどう生きたいか、その為に何が出来るのか、ターミナルケアの実践の為、日頃から、主治医、家族との話し合いの場を持ち十分な職員の教育の場を確保して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居時、住み替え時等、出来る限りの情報交換を行う機会の確保に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権侵害をしない事、入居者一人ひとりの違いを尊重し、さりげない心のこもった言葉かけや、対応を心がけている。個人情報の取り扱いについては、保護管理規定を定め、全職員に周知徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が感情表現できる様指示や強制ではなく、同う姿勢で自己決定できる様、余裕のある言葉かけ雰囲気作りをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、入居者のペースに合わせた生活の流れを心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に沿った髪型や服装ができる様支援している。家族の協力もあり、カットは美容師さんに来てもらったり、なじみの美容室に出かけパーマをかけたり、おしゃれを楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳等、役割分担をしながら、一緒に準備や片付けを行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の嗜好は周りの方々に迷惑のかからない様配慮し、出来るだけ対応をしている。状況により、自室での対応をお願いしている場合もある。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録により排泄パターンを把握し、個人の排泄に合わせた声かけ、トイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体状況にもよるが、一人ひとりの希望やタイミングを尊重した上で、基本的に毎日入浴を楽しみ、心も、身体もリフレッシュしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	気付きを大切に、個別の状況に応じた関わりを心がけ、一日のリズムを整え、睡眠パターンの安定に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	規則に縛られるのではなく、役割の提供、持っている力を活かすことで、自信の回復に繋がる様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は事務所預かりとし、個人の力量に応じ、買い物等本人が行える様支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や、天気に応じ、気軽に、散歩や買い物に出かけている。	○	スケジュールに捉われるのではなく柔軟に、気軽に外出が出来る機会の確保。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天気や体調を見ながら、ドライブや公共施設、外食等に出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも事務所の電話は使用可能であり、手紙のやり取りも行える様支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問はいつでも受け入れており、居室で過ごされる家族やリビングで、他の入居者と一緒にお茶や会話を楽しまれる家族もあり、職員との信頼関係は出来ている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルにより、全職員拘束をしないケアを徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけていない。居室の扉も鍵を掛けられるような作りにはなっているが、今まで鍵を使用した事は一度もない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常にフロアに出ているよう心がけており、職員間でのポジショニングの連携もとれている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在、刃物類や薬物等危険な物品は、施錠の出来る戸棚や手の届かない場所に保管し、職員管理としている。一人ひとりの能力にあわせ使用時はセッティングしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	環境の整備、病気の理解、ADLの把握を徹底。又、ヒヤリハット・インシデント報告書の記入により、大きな事故に至らぬよう努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師による指導や、勉強会・研修会参加により基本的な応急処置についての知識はあるが、入居者の高齢化に伴い事故や急変のリスクも高まっている為、日頃より主治医との連携を図っている。	○	緊急時対応の定期的な訓練の実施
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な非難訓練の実施や事業所他部門との連携、地域避難場所の確認等、特に夜間帯の避難誘導については、全職員に周知徹底させている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	アセスメント、モニタリングを通して、起こり得るリスクや直面している問題点については家族等に説明、職員は随時状態の変化時にはカンファレンスを実施し、対応策を話し合う機会を確保している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人の既往症、現病歴については全職員が把握し、バイタルチェック・排泄チェック・水分食量チェック、顔色、様子観察により、身体状況の変化や異常の早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理は主治医の指導の下全職員が理解し行っている。処方箋はファイルに整理し、個別に服薬一覧を作成、いつでも確認できる様になっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じ個別に牛乳や繊維質の食品を取り入れたり、体操や散歩等活動の時間を取り便秘予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施、歯の痛みや義歯の不具合が生じた場合は随時歯科医院を受診。協力歯科医院により、往診の対応も可能である。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランス・カロリーを管理している。摂取量は毎日記録し、個別で摂取量を把握し食態、量の調整を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成、又感染症研修の実施により全職員予防対策の周知徹底を図っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品の殺菌消毒、手指消毒、食材の保管等、栄養士の指導の下実践している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の両サイドに季節の草花が楽しめるよう花壇を配置、敷地内玄関は開放、違和感や威圧感を感じさせない自然な雰囲気作りに配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や設備は家庭的であり、手作りの小物や季節の花を飾ったり、天候や時間による光の調節や、テレビや職員の声のトーンにも配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、共同生活スペース以外に、くつろげるスペースの確保や、空間の利用は不十分である。状況に応じ相談室や玄関前スペースを活用している。	○	気軽に会話を楽しんだり、一人になれる区間の演出に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や馴染みのものは、自由に持ち込めるようになっている。カーテンも好みの柄で、個性的な演出が可能となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分の他、居室においても本人の状態に応じて適宜適切に行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリー、随所に手摺りを設置、床材は滑りにくいものを使用し、居室には個別に分かりやすさに配慮した表札をつけ、トイレの表示は分かりやすい工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの生活歴を大切に考え、混乱や失敗を招かぬ様、原因の排除や、環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには物干し場を設置、中庭には園芸を楽しむスペースも確保、入居者が楽しみや張り合いを持って生活できる環境を整えている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「自分がその人だったらどうして欲しいか」を考えながら日々関わっていくこと。ホームは、食事作りや洗濯、掃除、買い物、花壇の世話など、昔取った杵柄、まだまだできるご自分の能力を活かしながら、穏やかに誇りを持って暮していけるお住まいです。建物は、栃木駅南口の住宅街、公園の脇に立地し、日当たり良好、環境抜群です。職員は入居者の方が、地域の中で暮しているという実感を、出来るだけ多く感じて頂けるような取り組みを実践しています。栃木グループホームそよ風では、「お住まいの方の人権尊重を基本方針として“楽しい” “嬉しい” “ほっとする”、そんなあたりまえの感情を持てる瞬間を大切に考え安全に生き生きと生活できるよう、見守り支えてまいります。